様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月　 ３ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２１１６

研究課題名（和文）次世代ヘルスケアとしてのヘルスツーリズム研究

研究課題名（英文）Research on Health Tourism as Next Generation Healthcare

研究代表者
荒川　雅志（Arakawa, Masashi）

琉球大学・国際地域創造学部・教授

研究者番号：７０４２３７３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：ニューツーリズムとして現代に再登場を果たしたヘルスツーリズムは、観光分野のみならず国家戦略である次世代ヘルスケア産業創出や、企業社員の生産性向上など健康経営への展開可能性がある。一方、科学的根拠に基づく体系的整理や学術基盤は脆弱であることから、本研究では、ヘルスツーリズムのエビデンステーブル構築を基に、国内先進地での宿泊型新保健指導ヘルスツーリズムの開発を行い、効果評価とともに日本型ヘルスツーリズムとしてのモデル構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本型ヘルスツーリズムのモデル構築を行う研究はこれまでにない初の試みである。本研究により、次世代ヘルスケアとしてのヘルスツーリズムの学術基盤となり、持続可能な事業化、産業地域振興にも寄与するとともに、ヘルスツーリズム開発を契機に従来交わることのなかった医療機関、健診団体等、保健分野の領域と、宿泊施設、滞在先での体験や食を提供する事業者、旅行会社との連携、多業種、多職種、そして異業種が交わり、双方業界の常識や慣行にとらわれず、広い視野から新しいサービスイノベーションが起きる可能性があることを本研究で示唆した。

研究成果の概要（英文）：Health tourism, which has reemerged in the present era as a new form of tourism, presents an opportunity not only for the tourism sector, but also as a national strategy towards the creation of next generation healthcare industries. It also carries the potential to develop health management systems which could increase productivity of private sector employees and offer other benefits. However, a systematic structure based on scientific evidence, and the academic foundations themselves are weak. Thus, in this research, based on an evidence table constructed from the main programs that compose health tourism, we developed "Smart Life Stays," overnight stay health guidance projects in regions with advanced healthcare throughout Japan. We then evaluated their results, and created a model of Japanese health tourism.

研究分野：ウェルネスツーリズム

キーワード：ヘルスツーリズム　ヘルスケアツーリズム　ウェルネスツーリズム　ウェルネス　宿泊型新保健指導　次世代ヘルスケア　健康経営　ヘルスプロモーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ヘルスツーリズムとは、海外研究では 1994 年の段階で Goodrich らが「ヘルスケアツーリズム」と解釈している。近年ようやく我が国で日本再興戦略「健康寿命延伸産業」による医療費削減、新たな市場創出、雇用の拡大という一石三鳥への期待や地方創生の新しい切り口に観光を活かしたヘルスケアの推進が掲げられた。厚生労働省では「糖尿病予備群を対象にホテル・旅館などの地域観光資源等を活用する『宿泊型新保健指導プログラム』（スマート・ライフ・ステイ）の普及促進」の研究班が立ち上がり本研究代表者は分担研究者で参画している。地域資源を活かした食事指導、運動指導など保健指導型ヘルスツーリズムにより、快適な環境で集中的で効果的な特定保健指導効果を実現する期待が高まっている。

健康ニーズが高まる社会背景、旅行者ニーズ多様化とともに、ホスト住民と来訪者双方が期待する地域健康まちづくりの新たな切り口、さらには国家戦略における次世代ヘルスケア産業としての期待、新たな保健指導としての期待を担うヘルスツーリズムは、海外での認識を参考にしつつ日本独自のヘルスツーリズムとして産学地域連携による発展を遂げることが期待される。地域資源を健康資源として新たな価値を創出し日本の観光の大きな誘引力になる時代が到来する予測のなかに、学術基盤の構築は急務である。

２．研究の目的

新しい観光（ニューツーリズム）の観点で解釈されてきた日本のヘルスツーリズムに対し、次世代ヘルスケア、新ヘルスプロモーションとしてのヘルスツーリズムの位置づけ及び関係省庁の取り組みを本研究代表者は初めて国際会議で発表した（Arakawa M,2015）。本研究では、次世代ヘルスケアの観点からヘルスツーリズムを捉え、ヘルスツーリズムのシステマティックレビューをもとに日本のヘルスツーリズムをリードする先進地において特定保健指導準拠型ヘルスツーリズムの介入研究を実施、日本型ヘルスツーリズムとしてモデル構築を行った。

３．研究の方法

日本のヘルスツーリズムをリードする先進地としてヘルスツーリズム認証制度設計に協力した先進地 3 か所（和歌山県田辺市（熊野古道健康ウォーク）、山形県上山市（上山クワオルト）、沖縄県南城市（メンタルヘルスツーリズム））において事前ヒアリングを実施、南城市をモデル地域に選定し、日本型ヘルスツーリズムとしてモデル構築を行った。企業社員の健康経営対応、保健指導型ヘルスツーリズムプログラムを開発し、プログラムの被験者、従事スタッフへの満足度及び改善ポイントのヒアリング調査を実施し、モデル構築の検証および研究全体の総括を行った。

４．研究成果

（１）**構成要素の開発：** 厚生労働省の「宿泊型新保健指導試行事業」に準拠し、開発のポイントとして 1）宿泊を伴う保健指導により、通常より時間をかけて取り組める、実践を交えた体験から学ぶことができる。また、普段と違った環境で意欲の向上が図れること。2）旅の持つ楽しさ・快適さの中で、体験学習を通じて糖尿病等の生活習慣病について本人の理解を深め、具体的かつ実現可能な行動計画が立てられること。3）特にこれまでの保健指導で効果が出にくかった者や、健康への関心が低い者に対して提供する重点的な保健指導プログラムの新たな選択肢となること。4）地域の社会資源（人材、施設、環境）を活用し多機関・多職種連携により、健康分野に限らず、地場産業や観光分野への波及効果が期待できる点に注力した。

（２）**栄養プログラムの開発：** 宿泊中の食事を利用して実践的な保健指導につなげ、地域の飲食店にとっては、保健指導に対応した新たなメニュー開発の契機となり、新たな顧客開拓の機会が生まれる。従来なら連携することが少ない料理人と管理栄養士、保健師との協働により、健康的な食事摂取基準を満たしながら、その土地でしか提供できない食材を使った創意工夫ある新しいレシピ開発が促され、差別化が可能となる。地域の食材を使った調理実習や、参加者が自分達で自由にご飯を盛り、それが実際には何グラムあるのかを計り、普段食べる量のカロリーを実感する体験プログラムが開発された。

（３）**運動プログラムの開発：** 糖尿病予防・改善と運動・身体活動との関連を体験的に学ぶ、旅先には地域の海や山など豊かな環境を活かした運動プログラム開発が可能である。海岸沿いや森林など起伏に富んだウォーキングコースの開発、地域の歴史文化財を訪ね、楽しみながら自然と活動量を得る体験、温泉地では理学療法士、運動指導士らと協働による湯中運動が開発され、天候に左右されずにいつでもできる全天候型の室内プールでのアクアフィットネスを開発した。

（４）**アクティビティの開発：** 地域の豊かな自然や文化に触れ、じっくりと保養し、楽しみながら健康の大切さ、健康への気づきにつながる学びを得ることが宿泊型新保健指導の特徴である。これまで気付かれていなかった地域固有の資源をヘルスケア資源として掘り起こし、多業種、多職種、異業種連携により新たに活用することで、地場産業の振興、新たな観光産業の創出など地域活性にも繋がる。美しい海が見える公園や海岸というロケーションでの朝ヨガを滞在中に毎朝実施した。朝の光を浴びることやヨガのストレッチ効果で体温の緩やかな上昇を促し、生体

リズムを調整する効果を解説しながら実感することができる。地域固有の文化を活かす試みでは沖縄の伝統文化「ハーリー体験」を実施した。運動アクティビティでありながら、参加者がグループに分かれ競うことで一体感を醸成し、健康経営、企業研修のチームビルディングにも活用することができる。自然崇拝、祖先崇拝の地、独自の精神風土が息づく沖縄の拝所を巡り、家族への感謝、自分の心身への意識と感謝の念を想起するツアーをプログラムに構成した。また、普段気づきにくい自身の睡眠に対して、宿泊の機会や環境は睡眠理解の場に活用することができるとして、睡眠測定機器メーカーとホテルとの共同で簡易測定機を寝室に設置し快眠測定体験を実施した。

（５）**研究総括：** 健康改善に向けて座学の知識のみならず、自然環境を活かした体験型の指導を、保健師、管理栄養士、理学療法士等の専門職が一緒に同行宿泊し、地域の宿泊事業者および観光関係者らと連携体制をとり行動変容を促す取り組みはこれまでにない新しい保健指導のスタイルである。地域の豊かな自然や観光体験から得るリラクゼーション効果や、非日常、宿泊先での仲間やスタッフ、地域の人々との触れ合いを通じ、自分の生活をじっくりと見つめ直し改善への意欲が高まる、グループダイナミクスや転地効果も相乗して効果を高めるものと考えられた。

効果の観点とともに、持続可能な事業化の観点からの考察を行った。単体で宿泊型新保健指導プログラムを成立させることは難しく、自治体が主体となり、地域の健診機関、保健指導スタッフ、観光協会、地元旅館組合の全面的な協力を得て連携を果たしている例や、新たな旅行商品の開拓という視点で、大手旅行会社が顧客開拓、販路を担う役割ではじめから連携を果たしている例も見られる。効果的な保健指導内容としての要件を踏まえながら、滞在全体としていかに魅力あるプログラムにするか、さらには持続可能な事業として成功に導くためには、健康を専門とする人材・機関と観光および公的保険外サービスを提供する人材・機関の連携「アライアンス（Alliance)」は不可欠である。アライアンスとは互いの利益のために緩やかな協力体制を構築することで、従来交わることのなかった事業者のアライアンスにより業界の常識や慣行にとらわれず広い視野から俯瞰してみる機会ができ、新しいアイデアや発見が生まれやすく、サービスイノベーションが起きる可能性が期待される。それぞれの強みを提供し弱みを補完するアライアンスとして、医（西洋医・東洋医、カウンセラー、相補代替療法専門家など)、休養癒し（スパセラピスト、エステティシャンなど)、栄養（管理栄養士、料理人など)、運動（理学療法士、健康運動指導士、トレーナーなど）の健康医療系分野と、宿泊・旅行・運輸を代表とする観光系分野、IT／IoT 分野との連携は不可欠である。それぞれの得意分野を活かす戦略的提携を組むことで健康をトータルにケアする時代が到来している（図 1)。

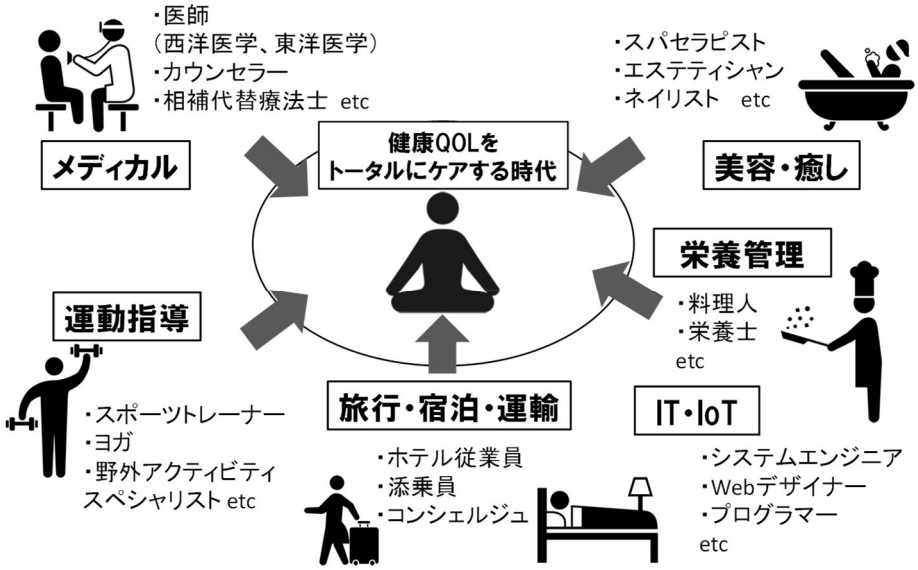

図 1．日本型ヘルスツーリズム、宿泊型新保健指導プログラムの異業種連携
―持続可能な事業化の観点からのアライアンスの必要性―

補助事業などに頼らずに自走していく、顧客開拓をしていくには健康投資への価値や費用対効果をどう見せていくか、品質評価面も重要である。公的保険外サービス創出を目的に、経済産業省の健康寿命延伸産業創出推進事業において、旅行を通じて健康増進や疾病予防を図る、いわゆるヘルスツーリズムの品質を、第三者認証によって評価するヘルスツーリズム認証制度が動き出している。日本ヘルスツーリズム振興機構と日本規格協会、日本スポーツツーリズム推進機構の 3 者がヘルスツーリズム認証委員会を構成し、2018 年度より認証事業を開始した（全国 38 プログラムが認証取得＊2020 年 1 月時点）。この認証を通じて、効果実感や信頼、ブランド、流通の課題の一部が解決される可能性があるとして市場の注目が集まりつつあり、消費者が参加を検討する際の判断基準、地域や施設の集客力向上やブランド力向上への貢献も期待できる。民間力の活用、民間主導による運営体制の構築も持続可能な事業へ向けて鍵であることも示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 荒川雅志	４．巻 3
２．論文標題 地域資源をヘルスケア資源へ～宿泊型新保健指導の実際～	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Precision Medicine	６．最初と最後の頁 96-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 張雅晴、荒川雅志	４．巻 34
２．論文標題 沖縄の地域特性を生かしたメディカルツーリズムの事例研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	６．最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 喜瀬真雄、荒川雅志、津下一代、村本あき子、花城和彦、青木一雄	４．巻 1
２．論文標題 宿泊型新保健指導における運動指導方法の検討	５．発行年 2017年
３．雑誌名 理学療法学Supplement	６．最初と最後の頁 1302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒川雅志	４．巻 34
２．論文標題 ウェルネス、ウェルネスツーリズムと沖縄	５．発行年 2019年
３．雑誌名 南方資源利用技術研究会誌	６．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/2868962	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計1件

１．著者名 荒川雅志、NPO日本スパ振興協会	４．発行年 2017年
２．出版社 フレグランスジャーナル社	５．総ページ数 112
３．書名 ウェルネスツーリズム～サードプレイスへの旅～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考